

OneDrive でファイル、フォルダの削除をすると

Onedrive は、パソコンの OneDrive フォルダと Microsoft が提供するクラウドストレージ間で保存（格納）内容の同期をとる機能があります。

同期していますから、パソコンの「OneDrive」フォルダから削除した場合は、クラウドストレージからも削除されますし、ブラウザによりクラウドストレージから削除した場合は、パソコンの「OneDrive」フォルダからも削除されます。

削除された場合は、パソコンでは標準的に「ごみ箱」に格納されます。「OneDrive」フォルダの場合も同じです。パソコンでの削除も、ブラウザでの削除もともにパソコンの「ごみ箱」およびクラウドストレージの「ごみ箱」に格納されます。

パソコンでのファイル（フォルダ）の削除には、削除対象ファイルを右クリックし、表示されたメニューの「削除」をクリックするとき「Shift」キーを押しながらくりつくすると「このファイルを完全に削除しますか」のメッセージが表示され、そこで「はい」をクリックすると「ごみ箱」に格納されず削除がされます。しかし、クラウドストレージでは「ごみ箱」に格納されています。（クラウドストレージには「完全に削除」はありません）

「ごみ箱」に格納された、削除されたファイル（フォルダ）は、元に戻すことができます。パソコンで「元に戻す」をすると、「ごみ箱」から「OneDrive」フォルダーに戻り、クラウドストレージでも「復元」され「ファイル」に格納されます。逆にクラウドストレージで「復元」すると「ごみ箱」から「ファイル」に戻ります。パソコンもクラウドストレージも戻した元の「ごみ箱」からは、消えますが、同期相手の「ごみ箱」からは消えません。つまり、パソコンで戻した場合は、クラウドストレージの「ごみ箱」に残り、クラウドストレージで「復元」した場合は、パソコンの「ごみ箱」に残るのです。

これは、「同期」がパソコンの「OneDrive」フォルダとクラウドストレージの「ファイル」および「写真」との間でのみ行われているため当然ですね。

* 「OndDrive」の仕様は2017年8月現在のものです。